

令和6年9月2日

No. 6



発行責任者

校長 有崎 美紀

自ら伸びる



府中中央小学校ホームページ <http://chuosho.fuchu-town.ed.jp>

〈2学期始業式の校長の話〉 「何のために」を問う暮らし

1学期の終業式で「言葉は人間を創る」という話をしました。夏休みの間、言葉を大切にしたら暮らしを意識しましたか。また、心に残った言葉に出会いましたか。

この夏はパリでオリンピックが開催されました。

みなさん、福部真子さんという陸上選手を知っていますか。福部選手は、府中町出身で、今回のパリオリンピックに出場しました。府中町のいろんな場所に横断幕が掲げられていたのを見た人もいることでしょう。福部選手は、陸上競技女子100mハードルの準決勝にまで出場しました。惜しくも決勝進出にはいたりませんでした。競技後、福部選手は「最高の12秒間だった」とコメントしました。世界の大舞台であるオリンピックに出場するまで、自分の強みを伸ばし、自分の弱さから目を背けず、日々努力を積み重ねる過程があったからこそ、「最高の12秒」という言葉が生まれたのでしょうか。福部選手だからこそ言える言葉であり、私はその生きた言葉に心が揺さぶられました。美しい言葉でした。

さて、今日から2学期のスタートです。2学期は1年間の中で一番変化する時です。今はこんなに暑いけれど、2学期の終業式の頃はクリスマス。季節も大きく変化します。この間、大きな行事もたくさんあります。その分、みなさんが成長するチャンスもたくさんあります。

大切なのは、行事をこなすことではなく、「何のために」行事をするのかを考えることです。「何のために」学ぶのか、「何のために」話し合うのかなど、考えるくせを付けることは、大切なことを見極めることにつながり、自らの根っこを伸ばすことになると考えます。

自分を育てるのは自分です。

自分を動かすのも自分です。

この2学期は、「何のために」という問いを大切にしながら、仲間や先生、保護者、地域の方と共に暮らしをつくっていきましょう。2学期もよろしくお願いいたします。

〈児童代表の言葉〉 「2学期に向けて」

3年 児童

- 1 いきいきと あいさつやるよ 頭下げ
- 2 新学期 漢字マスターに なるチャンス
- 3 手を挙げて 発表しよう 自分から
- 4 だっぴする 新しい自分 たん生だ

この4つの俳句は、3年生がよんだ2学期に向けてのがんばるぞ俳句です。この4句以外にも、苦手なことに取り組みたい、新しいことに挑戦したい、という俳句がたくさんありました。

これらの俳句を聞いて、これまで当たり前やっていたあいさつに加えて、新たな気持ちで様々なことに取り組みたい人が多くいることが分かりました。わたしも、2学期にはみんなの役に立てるような行動をしたいと思います。例えば、たてわりそうじでは、そうじ場所をていねいにそうじしたり、学習発表会やはちの子祭りなどの行事では、学年みんなのために自ら考えて働いたりしたいです。

2学期は、これまで以上に周りのみんなと話し合い、協力し合いながらがんばっていきます。

目指すんだ 自ら伸びる 3年生

コミュニティ・スクール活動

～夏休みもお世話になり、ありがとうございました～

夏休みも、CSのサポーターさんが、子ども達や学校のためにさまざまな活動を計画・実施してくださいました。いつもはちの子の学びを支えてくださり、ありがとうございます。

充実した夏休み塾

7月22日(月)・23日(火)、26日(金)・29日(月)の4日間、夏休み塾が行われました。たくさんの児童が参加し、緑ヶ丘中の生徒や安芸府中高等学校の高校生、保護者などが児童の宿題をサポートしてくれました。参加した小学生からは、「中学生が優しく教えてくれたので、分かりやすかった。」「優しく教えてもらって、宿題も進んでよかった。」という声が聞かれました。また、サポートしてくれた学生からは、「小学生が分かってくれてよかった。」という声がありました。来年も、また開催できることを楽しみにしています。



大繁盛の夏祭り

8月18日(日)に、本校でCS夏祭りが開催されました。夏祭りには、茂陰北町内会、緑ヶ丘町内会、南府台町内会、千代北町内会、府中緑ヶ丘中学校CS、安芸府中太鼓かっぼ連ひびき会、府中町盆踊り保存会、中央小PTAなど、たくさんの地域の皆様にご参加・ご協力いただきました。当日は、朝から櫓やテント設営、ブース準備など、地域の方・保護者の方・卒業生や児童がお手伝いしてくださいました。たくさんの人で大変賑わい、児童にとっては心に残る夏休みの思い出となったのではないのでしょうか。ご協力いただきました皆様、ありがとうございました。



生きた言葉に出会い、生きた言葉を深める

～夏休みも学びは続いています～

6年生 平和の鐘つきと折り鶴奉納・高校生による講話～平和を願って～

7月8日(月)の6年生の総合的な学習の時間で、久蔵寺のご住職 佐竹さんに平和への思いについてお話をいただいたご縁で、8月6日(火)に6年生有志約40名が久蔵寺を訪問しました。8時15分に原爆ドームの方角に向かって黙祷をした後、お寺の鐘をつかせていただくとともに、6年生一人一人が平和を願って折った鶴を、折り鶴実行委員が奉納しました。その後、府中町役場前を流れる榎川の河川敷にある府中町原爆慰霊碑に向かい、原爆で犠牲になった方のご冥福と世界平和を祈りました。

また、8月23日(金)には、県立加計高等学校芸北分校の高校生平和大使「みのり平和学習チーム」の皆さんから平和を伝える活動について話を聞きました。平和をつくっていくのは私たちであり、周りの友達を大切に、一人一人が相手の話をよく聞き、仲間と協力することが平和への一歩だと教わりました。6年生は、2学期の学習発表会で、学習したことや自分たちの思いを伝えます。



5年生 防災キャンプ ～命を守るために～

8月22日(木)に、府中町役場危機管理課や府中町消防本部等の皆様にご協力をいただき、5年生が総合的な学習の時間の一環として防災ミニキャンプを行いました。

「震災講話」「応急処置体験」「避難所体験(段ボールベッドの組み立て)」「Webハザードマップ体験」「マンホールトイレ体験・見学」の5つのブースを順に回りながら、体験を通して防災・減災について学び、危険を回避する方法や避難所生活の困難さや相互協力の重要性を理解したり、自分たちにできる取組について考えたりしました。体験活動の後、5年生は昼食に「救給カレー」を食べ、非常時の食事についても考えました。

これらの学習を通して、自然災害が起きたときに自分の命を守るにはどうしたらよいかを考え行動する力を身につけていくだけでなく、将来地域の防災の担い手として育ってくれることを願っています。



三角巾で骨折の固定を体験



ハザードマップで危険区域を確認



段ボールベッドの組み立て



簡易担架の作成



マンホールトイレの仕組み説明



救給カレーの試食

「じまんの俳句」第3回目の代表作品

今回は、クラスの代表作品を先生ではなく、自分たちで話し合いながら選びました。どのクラスからも素敵な作品が選ばれています。自分だけが見つけた夏の情景や楽しかった水泳指導についての俳句が多く集まりました。夏休みは、たくさんの出会いや発見、思い出ができたことでしょう。2学期にも素晴らしい俳句がたくさん生まれることを楽しみにしています。

夏の朝 カーテン開けると 光の矢

五年 児童

うだるような夏の暑さとうってかわって、今度は明るく爽やかな夏の様子を詠んだ俳句です。強い夏の日差しが、まるで光の矢のように部屋に差し込んでいます。そんな情景が表されています。

おでかけで いつもたべるの かきごおり

一年 児童

どこかに出かける度にかき氷を食べるという大塚君、それがいかに氷が大好きであるということが伝わってきます。中七が「いつも食べるよ」ではなく、「いつも食べるの」となっているのも、「いつも食べている」ことを強調しているようにいいですね。

このあつき もはやマグマを あびている

二年 児童

この俳句は「マグマをあびる」という独特の言葉で暑さを表現しています。また、「もはや」という言葉がとても効いていますね。この暑さは、マグマを浴びたときか言い様のない、それぐらいの暑さだと、〇〇君ならではの強調した表現の仕方が、光っています。

下校中 話した言葉は 「あつい」のみ

四年 児童

学校からの帰り道、黙々と家まで歩き、口から出るのは「暑い」という言葉だけ。そんな光景がありありと浮かびます。〇〇君が一人で歩き、思わず「暑い」とつぶやいたのか、それとも友だちと歩いていて交わした言葉が「暑い」だけだったのか。いずれにしても言葉にするのも嫌になるくらい暑いような暑さが俳句全体から伝わってきます。

水しぶき 夏だと感じる 二秒間

三年 児童

水しぶきがかかって、思わずひやっとするその瞬間に「夏だ」と感じる、しかもわずかに二秒間という一瞬の出来事をよんだ面白い作品です。下五の「二秒間」が印象的です。

警報中 十一時までの カウントダウン

六年 児童

みなさんも十一時まで警報が解除されないかハラハラしながら待っていたのではないのでしょうか。その時の様子をカウントダウンと表したところが見事です。どうか解除されませんようにと祈りながら、「あと〇分」「あと〇秒」と、まるでカウントダウンするののように、待ちわびていたことでしょう。